

JForest

森林組合だより

令和4年11月30日

発行

第 141 号



高性能林業機械（ハーベスタ）による伐採作業の様子

本荘由利森林組合

由利本荘市水林381

TEL 0184-24-4141 (代) FAX 0184-24-4143

HP <http://www.honmori.com/> メール honmori@trad.ocn.ne.jp



高校生インターンシップ



9月1日（木）～2日（金）の2日間、高校生のインターンシップ研修を実施いたしました。ここ数年は新型コロナウイルスの影響で1名のみの参加ということが多かったのですが、今年度は感染者数自体は増加しているもののワクチン接種が進み、活動の制限が緩和されてきたこともあって3名の高校生に参加いただきました。

初日の午前中は座学にて秋田県内の林業の概況を学習した後、西目の木材流通センター及び製材所にて木材の仕入れから加工されて流通するまでの流れについて作業場を周りながら確認していきましました。午後からは仁賀保地区の林産現場で高性能林業機械やチェーンソーでの作業体験を行う予定だったのですが、その日のにかほ市は9月の観測史上最大となる降水量を記録するほどの悪天候だったため、急遽予定を変更し、大内のチップ土場にてバイオマス事業の概要説明と丸太小割用の「シンウッド」というアタッチメントのついた重機の操作体験を行いました。通常のグラブ機械とは少々勝手が違ってヘッドが回転しないため、丸太の移動に四苦八苦していたようでした。

2日目の午前は、GPS及びレーザ測量、立木調査を行いました。GPS測量が義務付けられている背景なども交えて説明しながら測量を行っていただき、図面を作成してそれぞれでどのような差が出たのか確認していきましました。午後からは刈払機で下刈作業の体験を行いました。中々思うように草を刈ることができずに苦戦していたようです。

2日間の研修を通して参加した生徒の皆さんからは「大変な仕事だと思ったが、その中にある楽しさも実感することができた」と感想を述べており、これからも様々なことにチャレンジして自分の可能性を高めていきたいと思っております。



下刈機械の デモンストレーションを視察！

9月28日（水）、秋田市太平八田県有林先進的造林技術フィールド内で下刈り機械デモンストレーションが開催され、当組合の職員も参加しました。

県内の他森林組合や機械製造企業など3つの団体が機械の実演を行って、操作方法が異なるものや急傾斜に耐えられるもの等の様々な特徴を持った機械が紹介され、参加者は食い入るように機械の動作を確認していました。

現状の下刈り作業では、炎天下での作業や多数の人手がかかる等という点から、作業の負担が大きく重労働となるために下刈りを実施しない事業体も増加傾向にあります。しかし、これらの高性能下刈り機械を導入することで、作業負担を軽減するとともに、効率化や経費削減及び作業員の安全確保も同時に図ることができ、現在抱えている作業の問題点を解決する手段として期待が高まっています。

国内全体で今後の労働人口減少が見込まれている中で、高効率・低負担を実現する高性能林業機械やITを最大限活用した仕事の仕組みが必要不可欠となる時代になりつつあると日々感じておりますので、目先の利益に囚われずに将来を見据えた労働環境の整備に努め、長期的な森林・林業の発展のために尽力して参ります。



公益信託 農林中金森林再生基金事業（農林森力基金） 成 果 報 告

令和3年4月～令和4年9月にかけて行われた、令和3年度公益信託 農林中金森林再生基金事業、いわゆる「農中森力基金」の助成事業に当組合の事業が採択され、その事業内容について発表させていただきました。

この事業は、荒廃した森林が地球温暖化防止をはじめとした多面的機能を十分に発揮できない状況を踏まえ、民有林の再生事業に対して助成を行うことで、森林の多面的機能が持続的に発揮されることを目的とした公益信託で、森林施業の今日的課題の一つである「施業集約化」や「搬出間伐等」の取組みを更に加速させるため、荒廃林の再生事業の中でも、特に、地域の模範になり、高い波及効果が見込まれる事業や、先進性のある事業に、重点的に助成を実施し、地域の中核を担う林業事業体の事業実施体制の整備をサポートするものです。

今回、当組合で実施した事業を「親から子へ、孫へ 放置林の解消と、生長が見れる山に」と題し、事業概要をご紹介します。

- 所有者の世代交代等に起因する関心の低下
- 森林情報が正確に伝わっていない、境界がわからない

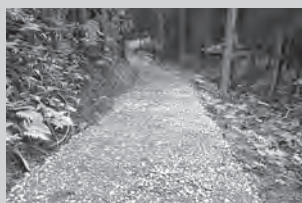
- 放置林の増加により資源の循環利用に支障
- 土砂流出防止や水源かん養等の公益的機能も満足に発揮できない

森林の荒廃

森林の機能低下

放置林の再生

- 境界の明確化や搬出材の有効な活用法を提案し、離れてしまった山への関心を取り戻す
- 山へのアクセスを良くして、生長を目で見て感じ取ることのできる山づくりを



林道や作業路網の整備

- ◎所有者が入山するときのことを考慮し、道幅を広くし勾配も緩やかになるように設計
- ◎景観にもこだわり、見た目でも魅力的な山に見えるように配慮



最新の森林測量管理システムの導入

- ◎高精度・高機能なシステムを導入し、より正確に、より早く測量・解析が可能に
- ◎蓄積した情報をデータベース化して、将来的にはインターネット上で閲覧

▶ 再造林助成金について ◀

組合だより第139号にて再造林助成金についての概要を掲載いたしましたが、春植栽分の申請が完了しましたので、その結果についてお知らせいたします。

植栽総面積合計 21件 28.16ha

森林所有者の皆様には、下記〈例〉のとおり、再造林助成金（精算金）をお支払いする予定です。

〈例〉

令和4年度 再造林助成金（精算金）支払通知書

令和4年●月●日

●● ●● 様

本荘由利森林組合
代表理事組合長 小松 佳和

令和4年度再造林助成金が交付されましたので次のとおり精算の上、お支払いしますので通知いたします。

◆施行箇所	由利本荘市●●字●●●●12-3
◆面積	1.26ha
◆助成金支払額	<u>¥121,561</u>

◇内訳

再 造 林 助 成 金	¥100,800	（秋田県及び再造林協議会より、80,000 円/ha）
森林組合助成金	¥63,000	（本荘由利森林組合より、50,000 円/ha）
事業費負担金	▲¥42,239	（別紙、事業費精算書のとおり）
助 成 金 差 引 額	¥121,561	

再造林助成金については、植栽時の所有者負担金、及び今後の下刈負担金の軽減を目的とし、交付されています。

今回お支払いする助成金につきましては、今後の下刈負担金に充て、森林整備に努めて頂けますよう今後ともよろしく願いいたします。

今後、再造林を予定されている方は、
本荘由利森林組合各支所にご相談ください。





新型コロナウイルスの感染拡大やロシアによるウクライナに対する軍事侵攻などにより、世界情勢が目まぐるしく変化していますが、木材産業でもそれらの現象に起因するウッドショックと呼ばれる木材の需要拡大が続いていました。当初と比較すると製品価格の値上がり等は落ち着いてきたところですが、今回は特に直近の大きな出来事である、ロシアのウクライナ侵攻による木材産業への影響についてお話ししたいと思います。

木材の輸出入による影響

ロシアの森林面積は国土の約50%を占め、世界全体の森林面積に占める割合も20%で第1位となっている森林資源大国です。

2022年1月に原木丸太の禁輸政策が開始され、その後ウクライナ侵攻による世界各国からの経済制裁を受け、報復として合板の材料となる単板などの輸出禁止措置を行っています。日本では針葉樹丸太で約6万 m^3 （約3%）、針葉樹製材で約81万 m^3 （約17%）とロシアからそれほど多くの木材・製材を輸入していたわけではありませんが、建築用のカラマツ合板はその耐震性から需要が多く、地震大国である日本の木造住宅に数多く使用されていたため、そういった輸入製材への依存度の高かった建材メーカーなどは大打撃を受けています。

また、ウクライナは中欧・北欧における重要な木材供給源であり、戦時下体制により経済活動が停止され大きな悪影響が出ています。ロシア・ウクライナ・ベラルーシの三大木材供給国の木材供給ストップにより、世界の木材需給のバランスが崩壊し、日本への木材供給量が大幅に減少するのではないかと懸念されていますが、同時に「国産材」も存在感を高めており、日本国内では置き換えが進むような状況も生まれています。

認証停止による影響

今回のロシアのウクライナ侵攻を受け、持続可能な木材資源の認証を行っているFSC（Forest Stewardship Council：森林管理協議会）・PEFC（Pan European Forest Certification：汎ヨーロッパ森林認証）の両認証機関は、ロシア及びベラルーシからの木材を「紛争木材」とみなし、両国からの木材資源に対し認証を停止する発表を行いました。紛争木材とは「武装集団、あるいは、武力紛争に関与する文民政権またはその代表者によって取引された木材であり、その目的が紛争の永続化または個人的な利益のための紛争状態を利用することにある場合」というもので、この認証停止の影響が最も大きいのは欧州と日本のエネルギー産業と言われています。バイオマス燃料として木材チップを使用する場合、FSC・PEFCのどちらかの認証を必要とするためです。また包装材・パレット業界にも影響があるとされており、コンテナ輸出入などに使用されているパレット材の深刻な不足により物流の停滞をもたらすと警鐘を鳴らしています。



木材市況情報 (令和4年)

単位：円、上段（石当り価格）
下段 m³当り 価格

			9月2日			10月4日			11月2日		
樹 種	材 長 m	径 級 cm	本荘由利木材流通センター			本荘由利木材流通センター			本荘由利木材流通センター		
			高 値	安 値	平均価格	高 値	安 値	平均価格	高 値	安 値	平均価格
ス ギ	3.65	14下	(2, 464) 8, 871	(2, 464) 8, 871	(2, 464) 8, 871	(2, 201) 7, 925	(2, 201) 7, 925	(2, 201) 7, 925			
		16～22				(4, 353) 15, 673	(3, 893) 14, 015	(4, 168) 15, 007	(4, 141) 14, 911	(4, 054) 14, 597	(4, 121) 14, 836
		24～34	(5, 085) 18, 309	(4, 098) 14, 755	(4, 699) 16, 919	(4, 757) 17, 126	(4, 331) 15, 595	(4, 573) 16, 464	(4, 668) 16, 808	(4, 326) 15, 576	(4, 597) 16, 552
出材量・販売量・販売率			287㎡(1,033石)・152㎡(547石) 52%			360㎡(1,296石)・360㎡(1,296石) 100%			385㎡(1,386石)・385㎡(1,386石) 100%		

9月：常連の量産工場の参加がなく単価もやや弱含み。原木在庫が豊富なことと、製品の売れ行きに陰りが出てきたことが要因。今後もやや弱含みの推移となる見込み。
10月：完売はしたものの製品市況の落ち込みを受けて単価はやや弱含みとなった。常連の買方が参加し、引き合いは強かったが、製品の売れ行きが鈍化している。
11月：常連の参加で完売。単価は横ばい。出品数量が少なかったが旺盛な引き合いがあった。

本荘由利森林組合林業研究会視察研修会

新型コロナウイルス感染拡大による未曾有のパンデミックから三年の月日が流れ、当研究会で毎年開催されていた視察研修会も昨年、一昨年と開催中止を余儀なくされ、数少ない会員交流の場が失われたことで会の活動にも支障を来す事態となっていました。が、ワクチン接種が進んだことや自粛要請の緩和もあり、規模を縮小して日帰りの日程ではありましたが、二年ぶりに視察研修会を開催させていただきました。

今回は日本国内でも有数の木造建築として「日本建築家協会賞」、「国際建築賞2010」、「グッドデザイン賞」他多数の賞を受賞している中嶋記念図書館を有する公立大学法人国際教養大学と、森林・林業における研究・技術開発を行い、近年は林業トップランナー養成研修（林業大学校）を運営して若手林業従事者育成にも力を入れている秋田県林業研究研修センターの二ヶ所を視察させていただきました。

国際教養大学は秋田市雄和の豊かな森の中にキャンパスが広がっており、学内の図書館にはその風景に溶け込む木造建築が求められたため、企画の段階で秋田県産木材の使用が条件付けられた結果、秋田杉と鉄のハイブリット架構となり、美しい秋田杉と伝統技術を生かした傘型屋根が織りなす落ち着きと安らぎのある空間が生み出されました。特に放射状の二重合成梁と中央に配置されている六本の放射状斜柱は目を見張るものがあり、多くの会員が感銘を受けている様子でした。

秋田県林業研究研修センターで行っている林業トップランナー養成研修では、現場

で実際に伐木や刈払い、重機での施業を体験するのはもちろんですが、VR（Virtual Reality：仮想現実）やシミュレーターを用いた仮想空間での施業研修も実施しており、仮想空間内であえて作業事故を起こす体験をすることで、誤った方法で作業を行う危険性を実際の被害なく学ぶことができるようになっていきます。最新技術を駆使しつつも、TVゲーム感覚で施業について学習できるので、これから林業に従事しようとする若い研修生には最適な方法だと会員も感心しており、林業のみならず社会全体で進んでいるIT化に当研究会も順応していかなければと意気込みを新たにいたしました。

